研究機関：広島大学

研究課題名　門脈圧亢進症に対する脾臓的手術の治療成績に関する研究
研究責任者名　広島大学大学院医系科学研究科　消化器・移植外科学　教授　大段秀樹
研究期間　　2019年9月5日(倫理委員会承認後) ～　2030年12月31日
対象者 2005年6月から2025年12月の間に、広島大学病院消化器・移植外科で脾臓摘出術を受けられた患者。
意義・目的 肝硬変症に伴う門脈圧亢進状態に対する治療として、脾臓摘出術が選択されることがあります。脾臓摘出術によって胃食道静脈瘤や肝性脳症を治療できるだけでなく、血小板の増加や肝機能の改善等も報告されています。また肝硬変は肝癌発癌の高危険群であることも知られていますが、脾臓摘出術による肝癌治療への影響や肝癌発癌との関連など依然として不明な点が多いのが現状です。本研究では脾臓摘出術症例の背景ならびに術後の短期成績および長期成績を詳細に解析することで、脾摘術の適切な手術適応を選定することや、肝癌に対する治療戦略の一部として脾臓摘出術を検討することなどを目的としています。
方法 本研究は該当期間に当てはまる症例に対して診療録（カルテ）情報を調査して行う後ろ向き研